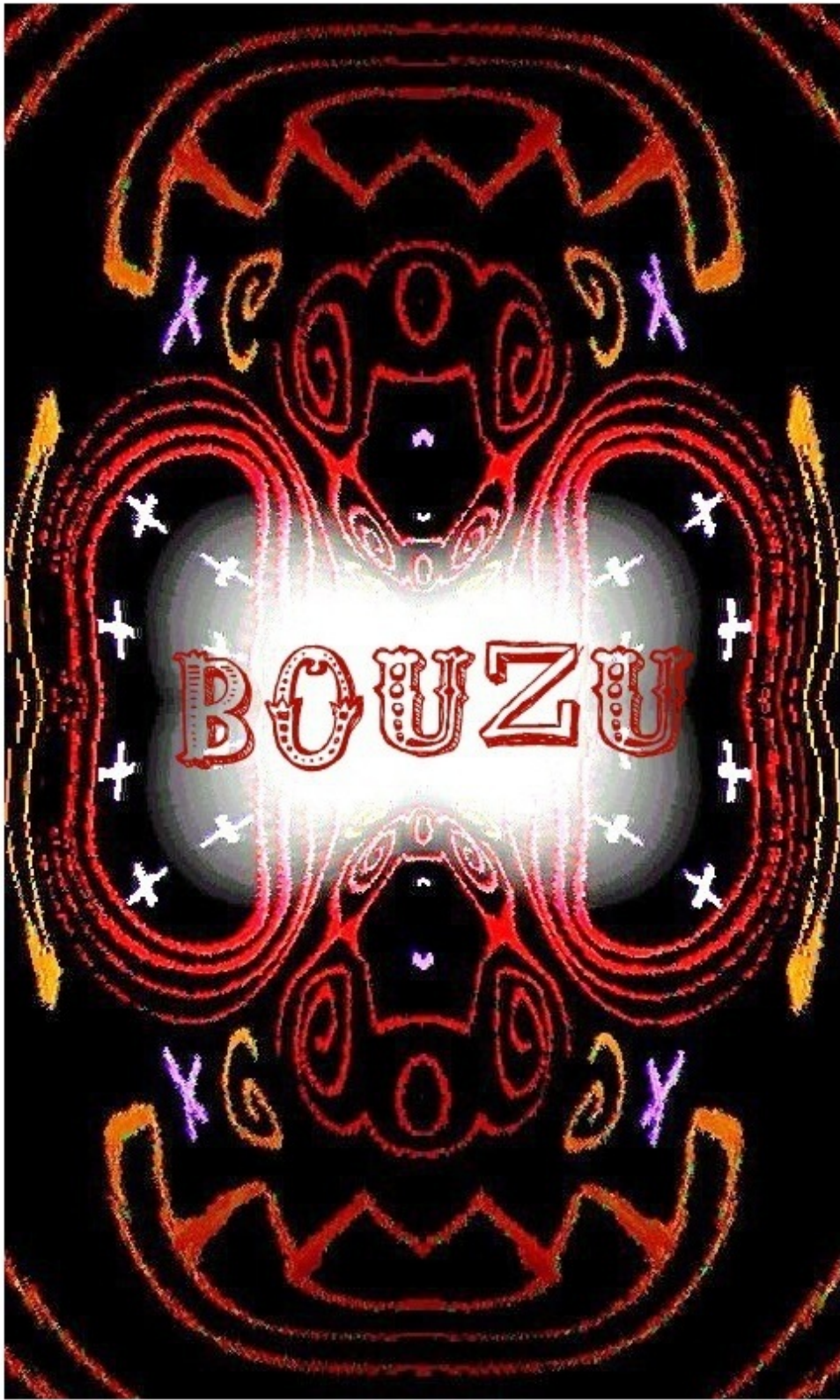


坊主論



mikatuki98

麿子という名前。 雅な生まれのお譲様だからではない。 生まれた場所は判らないが拾われた場所が神社の境内だったので、拾ってくれた育ての親がこの子は神様からの授かりものだ感謝し、神社と言えば雅よね、と胆略的な発想から更に雅と言えばこれだろうと夫婦の意見が一致して麿子と名付けられたらしい。

ところが運命の悪戯か、育ての父親は神社とは縁もゆかりも無い5代続く山寺・満福寺の僧侶で、おまけに名前が福丸（ふくまる）だった。そこで雅な麿子と書いて「まるこ」と読ませることにした。

しかしこの読み方が麿子の子供時代に影を落とす。 漢字を習いたての小学生の頃、学級委員長をつとめる秀才君が麿子をまること読むのは間違っている！と言い出してからというもの、クラスの皆に冷やかされた。 奇しくもTVアニメでは＜母をたずねて三千里＞が放映されていて、子供たちにとっては「まるこ」と言えばアニメの「マルコ」だった。 おまけに育ての父親は坊主頭ではなかったが、お坊さんということで中学生の頃には男子に付けられたあだ名が社会科の教科書に登場するマルコ・ポーロに引っ掛けてマルコ・ポーロだった。

そんな麿子が大学の自由研究で『坊主論』というタイトルのレポートを提出しようと思ったのも、ある意味頷けるものがあるだろう。

「お父さん、ごめん！ お父さんには麿子を深い愛情を持って育ててくれたこと、とても感謝してるわ。 もちろん、これからもお父さんの娘としてお父さんを誇りに思うわ。 でも、どうしても書きたかったの。 だってお父さんのこと、世間は色々と誤解してるもの。 だから敢えて書かせて貰うの。 悪く思わないでね、お父さん。 愛してるわ！」

麿子はそう言うと机に向かってレポートを書き始めた。

「坊 主 論」

＜坊主＞と言って、先ず思い浮かぶのは一般的に言う＜僧侶＞のことだろう。 次に思い浮かぶのが、五分刈り・三分刈りの短髪か、禿げかけているので思い切って剃ってしまっているか、又は毛はしっかりあるが敢えて好んで剃っているか、あるいはすっかり剥げてツルツルになってしまっている、いわゆる坊主頭のことだろう。 ところがこの＜坊主＞という言葉には意外にもさまざまな言葉の接頭語になって元の言葉に味付けをしている。

例えば、耳慣れないところで言うと＜坊主襟＞とは襟足が短く丸くなっているもの。 ＜坊主湯＞とは私たちが普段白湯（さゆ）と言っているもの。 その他＜坊主殺＞と言って坊主相手の私娼または若衆のことを指す、何とも実体の良くわからないものや、＜坊主主義＞と言ってマルクス主義の用語で、神を認め信仰を科学の上に置く立場を指して言う語などなど、活用範囲が広い。

とは言っても、＜坊主＞という言葉には親しみの気持ちよりは往々にして嘲りの気持ちが含まれている傾向にあることは免れない。 それは同じ僧侶でも＜坊主＞と＜法師＞とでは、その響

と意味に雲泥の差があるように感じる。その証拠に〈生臭坊主〉とは言うが〈生臭法師〉とは言わない。誰かが冗談にも〈生臭法師〉と言っているのを聞いた試しもない。恐らく一度でも人前で〈生臭法師〉と言おうものなら、自らの学の無さをひけらかすようなものだろう。もはや〈法師〉の域に達した者は、〈法師〉という言葉の持つ崇高な響と貴い意味から、その頭に毛があろうと無かろうと問題ではないに違いない。

では、どうして〈坊主〉という言葉には嘲りの気持ちが含まれてしまうのかと考えるに、恐らく坊主（僧侶）ではない人々の坊主（僧侶）に対する期待を、一部の坊主（僧侶）が裏切っているからではないだろうか。

例えばその期待の一つとして、坊主（僧侶）は精進料理を食べ、決して肉食などしない者である、というイメージがある。しかし現実には今の時代、野菜だけを食べている正真正銘のベジタリアン坊主（僧侶）なんてどれ程の割合で存在していることだろう。その実体を調査した人がいるという話も聞いたことがないが、坊主（僧侶）が全員、菜食主義だと思っている一般人は、最早誰一人としていないだろう。それでも人々は、心の奥で潜在的にこうあって欲しいと思う理想の坊主（僧侶）像を抱いているに違いない。だからステーキをガツガツと食い、酒を浴びるほど呑んでいる坊主（僧侶）の姿を目撃しようものなら、「あっ、生臭坊主だ！」と指差して、まるで極悪人にでも遭遇したかのように叫ぶのだ。（実際口に出して言わなくても心で叫ぶかもしれない）……

ココまで一気に書き上げた麿子は「ふう〜」と大きく息を吐くとペンを置き、代わりに冷めたコーヒーの入ったマグカップを右手に握った。

「生臭かぁ〜 そう言えばお父さんて本当に生のお魚食べないけど、あれってお婆ちゃんが生のお魚に中って早死にしたからだって聞いたけど、それって本当なのかなぁ〜？ 確かにお肉は全然食べないけど、それも子供の頃に高いお肉は食べさせて貰えなかったから食わず嫌いになったのよってお母さんが言ってたけどこれも作り話っぽいよね。ま、とりあえずは生臭坊主じゃないからいいか…… 毛もまだ薄っすらと残ってるしね……ふふふ。幼稚園の頃、どうしてお父さんはお坊さんなのに坊主頭じゃないの？って聞いたら、偉いお坊さんになったら頭も段々ツルツルになるんだよって言ってたけど、あれもジョークだったんだ……ふふふ」

麿子が含み笑いをしながらクッキーに手を伸ばした時、満福寺の鐘が5時の刻を知らせた。

ゴーーン♪ ゴーーン♪ ゴーーン♪ ゴーーン♪ ゴーーン♪ ゴーーン♪

「あれ？ お父さん、また間違っって一回多く鐘をついちゃったよ〜 また檀家さんから苦情が来るなぁ〜ははは ……さてと、続きは夜にしてっと……」

何となく今夜は父の為に、頂き物の鯛で母と一緒に鯛しゃぶを作ってあげようと思った麿子だった。 了